

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2123号 2012年07月23日(月曜日)

《 Yen might be higher this week 》

今週は「円高」への要注意が必要な一週間になりそうです。ヨーロッパ南部の情勢がスペインを中心に一段と悪化して、ユーロ安が進んでいるため。特に先週の後半にこの傾向が強まった。対する「介入警戒」も出てくるレベルに円は進みつつあるが、今の通貨情勢は「ドル安」ではないし、ある意味ユーロ安は投機的とは言えない動きであり、単純な介入では市場トレンドを変えられないとも考えられる。円高が進めば、東京の株価にとっても下方圧力となる。

欧州南部の情勢は、スペイン情勢を中心に予想外のスピードで再び悪化している。ブルームバーグが採用している数字によれば、金曜日には同国の10年物の債券利回りが一時7.284%に達した。これは今回の危機の初期につけた史上最高7.285%に限りなく近い。同社ではなく別の情報提供会社である Tradeweb だと、スペインの同利回りは金曜日に一時既に7.309%の史上最高に達したという。レートが違うのは別に不思議ではない。取材先の違いによる。

先のユーロ圏レベルの首脳外交で、スペインは同国の銀行に対する支援をほぼ希望通り得たばかりだった。一般的にはスペインはサッカーの欧州選手権よろしくイタリアと共に、「ドイツに勝った」と言われた。しかし国債利回りの急上昇や株価の大幅反落、それに経済見通しの悪化など今起きている事態は、「勝者」にはとって相応しくない。改めてスペインが「敗者」であることを想起させる内容だ。7%を上回る利回りで借金を重ねることは難しい、と一般的に思われている。事実だろう。この事態が続けば、スペインは国ごと救済の対象になる可能性が出てきた。

直近の報道によれば、中央政府よりも財政が悪化しているスペインの地方政府のうちバレンシア地方は金曜日に中央政府に対して緊急援助を要請したという。金額は不明だが、中央政府が緊急支援するだけの余裕があるとは思えない。「バレンシア」と聞いただけで訪れたい名前だが、スペインは中央、地方政府とも財政の内実は厳しいと言うことか。またスペイン政府は直近の一連の緊縮策を受けて、同国経済の見通しを引き下げた。BBCによれば、これまでのスペイン政府の見通しは、「2012年にGDPは1.7%のマイナス、しかし13年は0.2%のプラス成長になる」だったが、今回の見通しでは「2012年は1.5%のマイナス、13年になっても0.5%のマイナス」となったという。

マーケットは当然反応した。まず、ユーロが急落した。対円では一時95円30銭になったことは日本でも報道されているが、実はユーロは対ドルでの下げが大きく、金曜日だけで1%以上上げて1ユーロ=1.22ドルを下回った。これは2年ぶりのユーロ安。ドルがユーロに対して上がっているが、円はそのドルに対してもジリジリと上がっている、という構図。株価も反応。金曜日にスペインの株価は6%弱ほど下げた。イタリアの株価も4.4%下げて、更に同国の債券利回りは6%を大きく上回った。ということは7%に接近したということだ。

《 scant logic to intervene 》

一見ただけで、資金の動きの「南から北へ」の動きが出ている。ヨーロッパの中でだ。南はこのスペインやイタリアに加えて、問題が多すぎる。先週末にヨーロッパ中央銀行は当面ギリシャ国債の受け入れをやめると発表した。ギリシャが約束した一連の改革の実施で遅れを出しているため、今回の発表はギリシャに対して約束した改革を実施するように圧力を強めたものと思われる。

その結果のお金の北への移動だ。ドイツの10年債の利回りは1.15%と史上最低に接近。英ポンドはユーロに対して4年ぶりの高値を記録した。スウェーデン・クローナは今世紀が始まって以来の対ユーロ高になっている。ユーロは様々な通貨に対して史上最低に落ち込んだ。例えばオーストラリアとニュージーランドのドルに対して。スペインが抱える事態は急速に悪化している。徐々に看過できないレベルに達していると言える。関連するFTの記事の最後に以下のような文章があった。

「“It’s a bad hair day for the euro,” said Steven Englander, head of foreign exchange strategy at Citigroup in New York. “Foreign investors and Europeans are leaving the eurozone. There’s no indication we’re close to seeing anything resolved.”」

そう。「終わりが見えない」というのがヨーロッパ情勢の最大の問題点だと思う。多分銀行レベルではなく EU がスペイン全体を抱え込むようなことが必要だろう。しかしスペインはヨーロッパ第四位の大国だ。ヨーロッパが抱えるには少々荷が重い可能性もある。

週明けの市場では、「ユーロ安→ドル高、円高」の大きな流れの中でも、米景気の減速懸念が強いことから、円にジリジリとした上昇圧力がかかりそうだ。既に円は対ドルでも1ドル=78円台前半とジリ高の様相を呈している。むろん政府・日銀による介入への警戒感はあるが、常識的に考えて介入はなかなか難しい。

1. 今の相場の動きは「乱高下」とは言えない。two way market が崩れるなど市場の「乱高下」が介入の目安だと考えている欧米各国当局に「レベル」で介入の正統性

を主張するのは難しい

2. ということはやっても単独となるが、「ヨーロッパ情勢の悪化」という極めてファンダメンタルズに沿った動きに対して介入を始めても、その効果は長続きしない

などによる。今週はスペインとイタリアの国債入札がいくつか控える。スペインの利回りがさらに上昇すれば「ユーロは94円台まで売られる可能性がある」（日経の記事から）との声がある。その可能性はあるし、別に94円に限った話ではないと思う。またアメリカの経済統計にも関心が集まろう。以下の一覧のように27日にアメリカの4～6月期の実質国内総生産（GDP 速報値）が発表される。成長率が市場の想定以上に鈍化すれば、FRBへの量的緩和第3弾（QE3）への期待が高まる。となれば、ドルを売って円を買う動きも強まりそうだ。

今週の主な予定は以下の通り。

7月23日（月）	6月チェーンストア売上高 米6月シカゴ連銀全米活動指数
7月24日（火）	ユーロ圏7月PMI（購買担当者指数） 米5月FHFA住宅価格指数 米7月リッチモンド連銀製造業指数
7月25日（水）	6月貿易統計 米6月新築住宅販売件数
7月26日（木）	白川日銀総裁講演 韓国4～6月期GDP 米新規失業保険申請件数 米6月耐久財受注
7月27日（金）	6月全国・7月都区部 消費者物価 米4～6月期GDP（速報値） 米7月ミシガン大学消費者信頼感指数（確定値）

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。雨がちで、涼しかったのは良いのですが、全体的には天気恵まれない冴えない週末でした。梅雨明け宣言とほぼ同時の雨たっぷり、湿度たっぷりの天気でしたから、なんかだまされた気がした。だまされたと言えば、北京で大雨と洪水による被害が出たと聞いて、「あの水不足の地域に…」と思いました。まあそれだけ世界の気象の予想は難しくなっているのでしょう。

雨でかつ涼しいので「温泉がいいかもしれない」と思って、山梨の「ぷくぷく温泉」（ほったらかし温泉の近く）に行ったら、なかなか良かった。私は「温泉は友達の多い中で味わ

うのが良い」という主張です。雨の中の温泉、雪の中の温泉が好きです。この勝沼の近くの温泉から川浦、そして秩父の方に140号線に沿って移動しました。初めてで面白い道でした。その山間の厳しさに、「日本の中のブータンのようなところだ」と思いました。

ところで、この週末は雨がちで使い道がなかったかも知れないが、「男性用の日傘が売れている」と朝日に記事が。それは先週の水曜日、木曜日のロケで実感しました。それはそれは日差しが強かった。焼けるようでした。実際に欲しいと思っていたら、「4～5年前から徐々に広がり、今年は各店とも種類や数を増やして、猛暑に備えている」と記事にある。

実際に『オリジナルの男性用日傘をネット販売する大阪市の老舗傘店「心齋橋みや竹」では、今年すでに約400本が売れた。ここ数年は年に約1千本売れる』との文章も。問題は色でしょうかね。黒は暑そうだ。では何色が。ちょっと悩む。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》